

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972100394		
法人名	医療法人 レザレクト		
事業所名	グループホーム はなみずき		
所在地	高知県香南市野市町西野1863-3		
自己評価作成日	令和元年10月10日	評価結果 市町村受理日	令和2年2月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者、家族、地域とのつながりを大切に思い、文化祭、ボランティアの来所、クリスマス会、お花見等の行事に取り組み、地域交流の場の提供を心がけています。
また、併設しているデイサービスセンターとの合同の避難訓練を行い、それぞれの利用者にとって安心した生活の場となるように努めています。
洗濯たたみや洗濯干し、食器洗い等、生活の中で、利用者一人ひとりの能力にあった役割を持った生活が送れるよう、支援しています。
利用者の人格を尊重することを重点に、職員の言葉使いやマナー等に関しては、母体法人としても力を入れています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action=kouhou_detail_022_kihon=true&JkyosyoCd=3972100394-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	令和元年11月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、国道から少し入った静かな場所にあり、母体法人運営のデイサービスセンターが隣接している。周辺に農園もあり、花や野菜畑に囲まれ、四季を感じることができる。また、近くの母体法人の運営する協力医となっているクリニックは、24時間体制で緊急時にも迅速な対応ができ、利用者が安心して過ごせる体制ができています。
事業所の文化祭やクリスマス会には多くの地域住民が参加し、ボランティアや小学生が遊びに立ち寄る等、日常的な地域交流ができています。事業所の防災訓練には地域住民の参加もあり、災害時緊急連絡網には地域住民や家族の登録件数も多く、協力体制ができています。
開設当初から「利用者の人格、権利の尊重と能力に応じた暮らしの支援、介護を通じた利用者、家族の満足と職員のやりがいの実現」を趣旨とした理念、基本方針を掲げており、管理者や職員は、理念に沿ったケアの実践に取り組み、利用者が安心して地域で暮らしていけるよう支援をしている。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念づくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を玄関や事務所の目の付く場所に掲げて、日々の業務中や、月3回の職員会議では、職員が共有できるよう読み上げながら、実践につなげている。	利用者個人を尊重して、能力、可能性を引き出す介護の実践を目指した理念、基本方針を玄関や共有スペースに掲示している。職員会やカンファレンス時に理念を共有し、具体的なケアについて振り返って、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会活動としての年2回の一斉清掃活動への参加等、地域行事への参加を行っている。また、クリスマス会、文化祭等の事業所行事を通じて、地域住民と利用者の交流の場が持てるようにしている。	地域の一員として町内会に加入し、年2回の清掃活動等に参加している。地域住民が近隣に花畑を整地してくれたり、事業所開催の行事にも多数参加している。また、日常的に小学生が立ち寄る等、活発な地域交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域活動を通じて交流を行なう中で、認知症高齢者への理解を深めている。また、ボランティア活動前にはオリエンテーションを行い、認知症についての説明をし、理解が得られるよう対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組み状況を写真等も加えた資料で報告し、参加者からは質問や意見、提案を得て、職員会で検討し、サービスの向上に活かしている。	外部からは市担当職員、消防署員、家族、地域住民が参加し、会議では事前資料を基に課題について報告している。参加者からも質問や意見、要望を受けて、サービス向上に活かしている。家族には、議事録写しを送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当職員とは、運営推進会議や電話連絡、質問票のファックス送信でアドバイスを求めたり、ケアなどの相談を行い、協力関係を築いている。	運営推進会議以外にも、市担当者、地域包括支援センター職員と電話やファックスで相談し、事業所の取り組みを伝える等の協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内外の研修を受け、勉強会を行なっている。必要に応じて個別ケースの話し合いをして、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束適正委員会を3か月毎に開催している。日中は、玄関、個々の居室や窓、外部へ通じる扉などの施錠は行なっていない。	身体拘束廃止について定期的に研修会を行っており、身体拘束のないケアに取り組んでいる。日中は玄関に施錠はせず、玄関の鈴付けと見守りで対応をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外研修を受け、勉強会を行い、職員に虐待防止を周知徹底している。また、管理者が職員一人ひとりに声をかけ、疲労やストレスについて話をする機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学ぶ機会を設けている。また、研修に参加した職員による内部研修により、職員全員に伝達するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には、契約内容や重要事項説明書について分かりやすく説明している。また、契約の締結後でも、質問があれば、その都度説明を行い、家族の不安解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との日々の関わりの中で、要望や意見が出しやすい雰囲気配慮し、ケアに反映している。年2回の家族会での意見交換も行っている。家族の面会も多く、行事への参加もあるので、家族からは意見が日常的に出やすい。家族会での意見や要望については、職員会で周知し、改善に努めている。	家族来所時や、年2回の家族会議で意見や要望を引き出すように努めている。職員の名札を顔写真付きにする等、出された意見、要望等は職員間で話し合い、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月3回の職員会で、職員同士の意見や提案を出してもらい、代表者の参加があるときは、アドバイスをもらい、職員の意見や提案が日々の業務に反映できるようにしている。	月3回の職員会議で、管理者は職員から気づきや提案などを聞き、日常業務での排泄チェック表の改善等、職員意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の勤務状況、努力や実績を評価するとともに、健康診断実施により心身状況の把握もできている。研修参加は出張扱いとし、一部を除き事業所で負担して、職員の向上心を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの得意なことを、日々のケアで発揮してもらえるような機会を設けている。また、研修参加後の報告会を開催し、他の職員に伝達する機会も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	香南市介護課主催の地域密着型サービス事業所情報交換会への参加や、地域連携に関する勉強会に参加し、同業者と交流する機会をつくって、サービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に事前面談を行い、本人が安心した生活が送れるとともに、職員と馴染みの関係を築けるよう、習慣等の生活状況などを把握し、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事業所見学時や入所前に自宅を訪問し、事前面談を行って、今の生活での不安なことや要望等に耳を傾け、安心した生活が行えるような支援につなげていくとともに、家族との関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意見を聞くうえで、まず必要としている支援、優先すべき支援を検討し、可能な限り対応できるように他職種とも相談して、実施に努めている。		
18		○本人とともに過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしをともにする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、一緒にできることを探しながら行い、本人と職員がともに支えあう関係を築いている。また、労いの言葉や、感謝の気持ちを利用者伝えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人をともに支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、ともに本人を支えていく関係を築いている	各行事への参加の呼びかけや、キーパーソンの家族には日々の生活を撮影した写真入のお便りにコメントを記入し、毎月近況を知らせている。また、キーパーソン以外の親族にも、年2回写真を送っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所だった友人の来所や、電話での交流ができるように支援している。また、必要に応じて馴染みの関係の人への手紙を書いてもらったり、電話をかける機会も持ってもらっている。	友人、知人への訪問依頼の電話や手紙の連絡を家族に依頼し、馴染みの人とのつながりを取り持つ支援を行っている。事業所行事にも家族、友人が参加できるような環境づくりを行っているが、利用者が馴染みの場所へ出かける支援ができていない。	本人が今まで生活していた地域や地域住民との関係が継続できるように、馴染みの場所に出かけて行く支援を期待する。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う利用者同士や、同郷の者同士などが、食事や行事の際に隣の席になるよう配慮している。また、ゆっくりくつろげる場の提供にも心がけている。必要に応じて職員が話題を提供し、利用者同士で会話が弾むよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の情報を得たりしながら、いつでも相談を受ける関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々の会話でどのように暮らしたいかを聞きながら、本人の意向や希望の把握に努めている。表現が困難な利用者は、表情から希望や意向等を汲み取っている。また、家族からも本人のこれまでの生活状況や趣味等も聞きながら、思いに沿えるようにしている。	利用者との日々の関わりの中で把握に努め、意思疎通が困難な場合は、家族情報や表情から思いを感じ取り、利用者の意向に沿えるようように努めている。気づきノートを利用して職員間で情報共有し、個々の思いや意向の把握につとめている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談時に、本人、家族から聞き取りを行っている。それまでの介護サービス利用施設や主治医からの情報提供も得て、これまでの暮らしの把握をしている。また、個々のライフスタイルに応じた対応も心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活の流れに沿って総合的に把握をしたうえで、個々の言動や行動に反映し、声かけを行って、日々の生活の中でできる力が発揮できるよう、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向をもとに、主治医や医療連携看護などの助言、職員内での意見を踏まえて介護計画を作成し、月1回のモニタリングでズレがないか確認している。職員全員が計画書について意見交換ができるよう、職員会でカンファレンスを行うようにしている。	利用者や家族の意向を取り入れ、3ヶ月毎に介護計画を見直すとともに、利用者の状態の変化に応じてその都度見直しをして、現状に即したケアが提供できるようにしている。カンファレンスは職員全員参加で行い、月1回のモニタリングを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日常生活の様子を記録し、注意する点や検討内容は職員間で申し送り・連絡ノート等で情報共有して、ケアに活かしている。また、実施表や気づきノートへの記載では、職員が自由に気づきを記入できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病状に応じた医療機関の受診、美容院の訪問美容、併設のデイサービスセンターの利用を取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	香南市介護支援ボランティアポイント制度の活動への登録や、その他のボランティアを活用している。また、金融機関へ出向くことができない利用者には、入金や預金の引き出しに金融機関の外回りの職員に来所を依頼し、立ち会う支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望のかかりつけ医を受診し、適切な医療が受けられるように支援している。入所前に説明をして、本人、家族の希望でかかりつけ医を協力医に変更し、往診が受けられるようにもしている。	利用者、家族の希望で全員が協力医をかかりつけ医としており、月2回の往診を受けている。専門医の受診は家族対応だが、家族の対応が困難なときは、管理者が対応している。受診結果は、家族と情報共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師の週1回の訪問看護があり、利用者の健康状態の確認や、助言を得ている。また、毎朝看護師の来所もあり、日々の相談を行いながら、必要に応じた助言を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者入院時には医療機関との情報交換を行い、家族からの入院の様子を連絡してもらうほか、面会にも行き、関係性を持つようになっている。また、退院に合わせて、入院先での担当者会議も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの職員研修を実施し、入所時には終末期にかかる意向確認書等を本人、家族に説明している。本人重度化時には、常に家族に状況を報告している。事業所での対応可能な範囲を家族に伝え、医療関係者と連携して、支援に取り組むようにしている。	入所時に本人及び家族に終末期における意向確認書を説明しており、体調変化や重度化した場合には、再度、管理者と主治医から説明して、家族の意向を確認したうえで、医療機関と連携して取り組んでいる。これまでに2件の看取り実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを職員に周知し、内部研修も行っている。消防署職員からの応急手当についての研修を2年に一度受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域での防災訓練や、施設での防災訓練には、地域や家族の参加も呼びかけている。災害時の備蓄品も備えており、賞味期限の管理も行っている。各所室に防災頭巾や雨具を備え付けており、事務所には防災用のライト等を装備している。	消防署の立会を得て防災訓練を行い、地域住民や家族の参加もあり、協力体制ができています。災害時の備蓄品は3日分ある。利用者の居室には、防災頭巾と雨具を備え付けている。事務所内に防災ライト等も装備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活のケアの中で一人ひとりの人格を尊重し、利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう、職員同士で対応や言葉かけを注意し合っている。また、尊厳やプライバシー保護についての内部研修も実施している。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に注意している。管理者がその都度職員と話したり、職員会でも話し合いを行っている。ボランティア受け入れ時にも、事前に対応について指導している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話や表現の中から本人の思いを汲み取り、自己決定できるように声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の一日の流れもあるが、朝早く起きることが苦手な利用者については少し時間を置いて再度声をかける等、本人のペースで過ごせるように対応している。また、傾眠がある利用者には、自室での臥床の時間も設けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	乳液、ヘアースプレーを使用する等、一人ひとりの希望に沿えるようにしている。また、行事には化粧をしたり、浴衣を着ること等で、おしゃれを楽しんでもらえるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材の食べ方などを利用者に関き、アドバイスを受けながら調理を行っている。利用者の好きなものを提供したり、弁当を外注したりしている。また、盛り付けや、後片付け等も、本人の希望に沿って行っている。	食材は生協と産直市で購入し、メニューには利用者の希望も取り入れている。月1、2回の行事食では、弁当を外注し、楽しく食べている。食事の準備、片付け等、利用者のできることは、職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量のチェック表で把握し、日々の体調に応じた個々の食事形態の工夫を行っている。また、ミキサー食の提供や、栄養補助食品を利用して、栄養バランスがとれるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけや、介助を行っている。個々に応じた舌のブラッシング介助や、軟膏塗布介助を行っている。義歯は、毎日夜間洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、声かけや誘導支援を行っている。また、トイレでの排泄が継続できるよう、手すりを使用した動作補助を支援している。急な立ち上がり等の利用者の様子から声かけを行い、必要に応じてトイレ誘導も行っている。	排泄チェック表に記載し、一人ひとりの排泄パターンを把握して、行動のサインも見逃さず、日中はトイレで排泄できるように支援をしている。夜間は、自室にポータブルトイレを設置している利用者もいるが、排泄の自立に向けた支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操等で体を動かし、腹部マッサージで便秘予防に努めている。飲食物では、牛乳、ヨーグルト、食物繊維の多い食材を利用したり、水分摂取が進まない利用者については、こまめに水分補給を行ったり、好きな飲み物を提供して、水分摂取量の確保に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的に入浴が楽しめるよう、管理表をもとに声かけしながら入浴支援をしている。また、本人の好きな時間帯に入れるよう、声かけも行っている。一人ずつ入浴をしてもらっている。	希望すれば毎日の入浴も可能で、入浴を拒む利用者には、一人ひとりに合わせタイミングや声かけ等の工夫で入浴につなげている。平均週2、3回の入浴となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動的に過ごしてもらい、夜間自然に眠れるように支援している。昼間も、必要に応じて休息を取ってもらっている。また、就寝前に本を読む習慣があった利用者は、入所後も就寝前に本を読み、自分で好きな時間に就寝している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援担当職員は、名前や日付等のチェックを確認担当職員と行い、服用支援を行っている。薬の情報は、連絡ノートを通じて職員で共有し、必要に応じて薬剤師、訪問看護師と相談するようにしている。医師、看護師に相談し、薬を減す取り組みも行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	活け花、読書等、本人がこれまで習慣としていたことが続けられるよう支援している。また、食器洗い、洗濯たたみ、洗濯干し等での役割づくりができるように支援している。専門員による音楽療法も取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に合わせて、散歩の付き添いをし、地域住民が毎年植えているコスモス畑や、近隣の薔薇、牡丹等の花の見学に出向いている。天気の良い日には、玄関先やデッキに出ることを習慣としている利用者についても、本人の希望に合わせて外気浴ができるよう継続支援している。	天気の良い日は、利用者の希望に合わせて散歩や事業所のデッキでの外気浴を楽しんでいる。年2回の花見等の行事計画は、家族の協力も得て、利用者全員で出かけるように支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在事業所で預かり金を保管している。外出時には、できるだけ本人が支払いできるように支援している。また、本人が希望し、家族の了承のもと、自室に小銭程度を所持している利用者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に事業所の固定電話を利用したり、毎年の習慣であった年賀状などのやり取りができるよう支援している。また、希望で手紙も書いてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の絵画は、ボランティアが定期的に交換してくれている。ホールは日当たりも良く、周囲には花が咲き、季節を感じる事ができる。玄関やホールに花を活けたり、希望の利用者の居室にも花を活けている。毎日の掃除の際には空気の入れ換えを行い、状況に応じて適宜換気を行っている。	南向きの食堂兼居間は日当たりが良く、デスクにはベンチがあって見晴らしも良く、四季の移ろいを感じる事ができる。廊下の押し花の絵画は、ボランティアが定期的に交換しており、皆の目を楽しませてくれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりの良い場所では、利用者同士椅子に座って談笑したり、思い思いに過ごしてもらえるように椅子を配置している。気の合った利用者同士が、互いの居室を自由に行き来している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や、家族の写真等を自宅から持ってきてもらい、心地よく過ごせるように各々本人や家族で工夫して、居室の環境を整えている。	居室には家具やソファ、テレビ、写真等が置かれ、居心地良く過ごせる工夫がされている。また、日常使用する茶碗、コップ、箸は、個々に好みのものを使用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置し、廊下へは転倒要因となる物を置かないようにして、安全を確保している。また、トイレや浴室等が分かりやすいよう、文字を大きくして表示したり、イラストを添えたりして、分かりやすいように工夫している。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない